

## 輸血療法委員会の現状と未来 ：新本館棟完成による現状と未来への思い

白名 ゆり<sup>1)2)</sup>、山本 啓子<sup>1)2)</sup>、西山 彰博<sup>1)3)</sup>

キーワード：血液製剤の適正使用；輸血事故防止の対策；輸血認証システム

(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 123-124)

### 当院の輸血療法の現状

平成17年(2005年)9月、厚生労働省より輸血療法の適正化について「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」が通達された。当院においては、平成15年(2003年)3月に輸血療法委員会を設立し、現在は、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員9名の委員で構成され、年6回開催している。主な活動として、輸血療法に関する情報提供と適正な輸血の推進、および輸血事故防止の対策を行っている。施設基準は「輸血管理料Ⅱ」、「輸血適正使用加算」を取得している。

昨年度、新本館棟完成にあわせ、新たに輸血認証システムを導入し、輸血事故防止の対策を強化した。当院では出血が予想される予定手術においては、副作用や感染症のリスクが少ない自己血輸血も行っている。自己血マニュアルの見直しを行い、日本輸血・細胞治

療学会認定の自己血輸血看護師を講師に招き研修会も開催した。また、血液製剤の取扱いに関する研修会を開催し、知識を深めることにより、安全な輸血療法が実施できる体制作りに努めている。

### 今後に向けて

今後、少子高齢化により献血者が減少する一方で、輸血が必要となる患者数の増加が予想される。そこで、一層の血液製剤の適正使用が求められる。そのためにも、医療スタッフや血液センターがそれぞれの専門性を活かし、患者の状況に対応した医療を提供できるよう、密に連携していく必要がある。

輸血をはじめとする細胞治療は日々進歩、状況は変化しており、より安全で適正な輸血が行えるよう一層の研鑽をつみ、患者にとって安心かつ有効な治療となるよう、医療体制を整えていく必要があると考える。

## Present status and future perspective of the committee for blood transfusion therapy in Unnan City Hospital.

Yuri Shirana<sup>1)2)</sup>, Keiko Yamamoto<sup>1)2)</sup>, and Akihiro Nishiyama<sup>1)3)</sup>

---

<sup>1)</sup> Committee for blood transfusion therapy, <sup>2)</sup> Clinical laboratory, <sup>3)</sup> Department of orthopedic surgery, Unnan City Hospital  
Correspondence: Yuri Shirana, Clinical laboratory, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221,  
JAPAN]  
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501  
E-mail: kumo-lab@hotaru.yoitoko.jp